

本文献紹介に示された見解は、航空自衛隊幹部学校航空研究センターにおける研究の一環として発表する執筆者個人のものであり、防衛省または航空自衛隊の見解を表すものではありません。

2021年4月28日

文献紹介 014

習近平出席海軍三型主戦艦艇集中交接入列活動

(仮訳：習近平、3大海軍主力艦の集中引き渡し式に出席)
『解放軍報』2021年4月25日(第1面)

防衛戦略研究室 相田 守輝

2021年4月23日、中国海南省三亜の軍港において、中国人民解放軍海軍(People Liberation Army Navy: PLAN)の主力艦となる「長征18号」、「大連」、「海南」の3隻を同時に引き渡すセレモニーが行われた¹。

本稿では、人民解放軍の機関新聞である『解放軍報』の4月25日(第1面)に掲載された報道内容を中心に紹介するとともに、注目すべき点についてコメントすることとしたい。

1 中国による報道内容

(1) 『解放軍報』4月25日²

4月23日の三亜市にあるPLAN軍港は晴天に恵まれ、政府高官をはじめPLANやPLAN研究生産部門の代表など、2400名の関係者が参列するなか、新しい主力艦となる「長征18号」、「大連」、「海南」の3隻を同時に引き渡すセレモニーが行われた。PLA制服組の最上位である中央軍事委員会(Central Military Committee: CMC)副主席の張又俠(Zhāng Yòuxiá)陸軍上將がセレモニーの司会進行を務め、同じくCMC

¹ 4月23日は人民解放軍海軍創設の日であり、2021年は創設72周年にあたる。

² 王士彬「習近平出席海軍三型主戦艦艇集中交接入列活動」『解放軍報』2021年4月25日、http://www.81.cn/jfjbmap/content/2021-04/25/content_287922.htm、accessed on 27 April 2021.

副主席である許其亮（Xǔ Qíliàng）空軍上将によって、艦名や艦番号が発表された。これに続き、中国共産党中央委員会総書記、国家主席、CMC 主席という 3 つの肩書で紹介された習近平（Xí Jìnpíng）が臨場し、3 隻それぞれの艦長と政治委員に対し、PLA を象徴する「八一」軍旗とともに命名書を授与した、という。



出典：王士彬「習近平出席海军三型主戰艦艇集中交接入列活动」『解放軍報』2021年4月25日、
http://www.81.cn/jfjbmap/content/2021-04/25/content_287922.htm、accessed on 27 April 2021.

(2) 『人民網』4月27日³

上記のように、『解放軍報』では引き渡された3隻の主力艦に関するセレモニーの様子を簡潔に速報していたが、4月27日に報道された『人民網』では次のような解説が報じられた。

『人民網』によると、3隻の新型主力艦は、戦略ミサイル原子力潜水艦「長征18号⁴」、055型大型ミサイル駆逐艦「大連」及び075型強襲揚陸艦「海

³「習近平総書記が艦艇3隻の就役式に出席」『人民網日本語版』2021年4月27日、
j.people.com.cn/n3/2021/0425/c94474-9843217.html、accessed on 27 April 2021.

⁴ PLAN 潜水艦の命名には、通常動力推進の場合は「長城」、原子力推進の場合は「長征」と命名されていることが通例である。

南」であり、ともに南海艦隊に配属されることとなった、という。中国の専門家である宗忠平（Zōng Zhōngpíng）は、これまで導入されていた 071 型ドッグ揚陸艦とは異なり、075 型強襲揚陸艦は艦載ヘリを中心とした航空戦力の投射を重視した作戦をするために設計されている、と解説した。加えて、南沙（英語名；スプラトリー）の島や礁、東沙諸島、さらには台湾周辺や澎湖諸島で「戦力を投射する」ことが期待されている、という。

2 コメント

（1）戦力投射（Power Projection）の観点から

3 隻の新型主力艦は、どのような位置づけで扱われていくのだろうか。新型原潜「長征 18 号」は、南シナ海の深海において海洋核抑止力としての機能が期待されていくだろう。またミサイル駆逐艦「大連」は、空母「遼寧」や「山東」を中心とした、PLAN の空母打撃群の護衛に就くことが考えられる。しかしながら、今回のセレモニーにおいて特に注目すべきは、075 型強襲揚陸艦「海南」の登場ではないだろうか。すなわち、宗忠平の解説を踏まえれば、中国の海洋権益を確実に獲得していくため、PLA による水陸両用作戦を遂行するに必要な「戦力投射能力」を増強していることが伺える⁵。つまり、空母打撃群と強襲揚陸艦の組み合わせが、PLAN を中心とした、制空能力、制海能力に加えて強襲能力を強化している兆候を意味しているのである⁶。

（2）政治的な意義の観点から

今回のセレモニーに参加した要人は、前述した 2 名の CMC 副主席や PLA 総参謀長の李作成（Lǐ Zuòchéng）陸軍上将といった軍関係者や中国船舶集团有限公司（China State Shipbuilding Corporation: CSSC）などの中国国防産業の関係者ではなかった。

習近平の秘書として弁公室主任を務める、丁薛祥⁷（Dīng Xuēxiáng）や

⁵ Katz, David J. *Multidimensionality: Rethinking Power Projection for the 21st Century*. 2019.

⁶ Kane, Thomas M. *China's "Power Projection" Capabilities*. 2015.

⁷ 丁薛祥は中国共産党の党内調整を取り仕切る要職の中央弁公庁主任である。テクノラート出身の彼は上海の地方官僚であったが、習近平の秘書として抜擢され政権を支えている。次を参照。「習近平氏の“秘書”が要職の中央弁公庁主任に昇格、栗戦書氏の後任」『産経ニュース』2017年10月31日、<https://www.sankei.com/politics/news/171031/pl1710310006-n1.html>、accessed on 26 April 2021.

副首相を務める、劉鶴 (Liú Hè) など、政治局員クラスの高位な政府要人が参加している。単一軍種である PLAN の装備品が引き渡されるセレモニーの為に、このような高位な中央中共指導部の要人らが参列している事実に留意すべきであろう。すなわち、中国の海洋権益を確実に獲得していくため、必要な「戦力投射能力」を構築していくことが中央中共にとって極めて重要な政治的位置づけとなっている証左なのである。特に注目すべきは、習近平の側近である、丁薛祥が参列している事実ではないだろうか。なお、丁薛祥の前任者である栗戰書 (Lì Zhànshū) が、第 10 代全国人民代表大会常務委員長に昇格し、習近平、李克強に次ぐ序列第 3 位になったことから、後任者である丁薛祥も、近い将来、更なる影響力を持つ地位へ昇格する可能性がある。

中国国内政治の動向を分析する上において注目すべき人物であることを付言することとしたい。